

# 神戸市少年団登山教室山行（4月22日）報告

2023. 4. 24

## 1. 参加者

教室生参加者 23名  
引率者 岳連理事5名 教員ボランティア3名  
大学生ボランティア2名

## 2. 記録

天気 晴れ

9時 神戸登山研修所教室生 集合  
9時15分 神戸登山研修所 出発  
9時30分 妙光寺 馬頭観音 見学  
青谷道を登る  
青谷観光茶園を外から見る  
行者堂後近くの滝行場 見学  
旧天上寺仁王門から石段を数えながら登る  
(351段、321段など教室生によってさまざま下見  
の時に数えたときは361段だった。もっともこれが  
正解の保証はないが)  
摩耶の大杉 見学  
旧天上寺跡（摩耶史跡公園）で休憩  
登山道を塞いで倒れている親子杉を潜って掬星台を目

指す

11時45分 掬星台 着 昼食休憩  
12時35分 掬星台 出発  
12時50分 摩耶山三角点 着  
天狗道、学校林道を下る  
14時10分 高射砲台跡 着  
高射砲台跡 見学  
15時20分 新神戸駅 着  
15時30分 解散

## 3. 準備物

名札・地図・安全登山ハンドブック（小冊子）

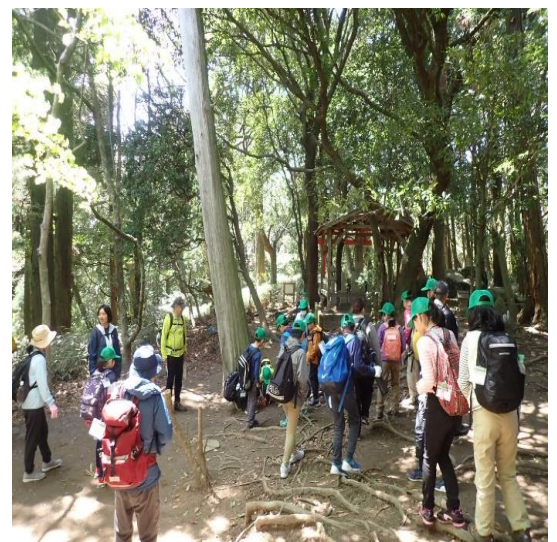
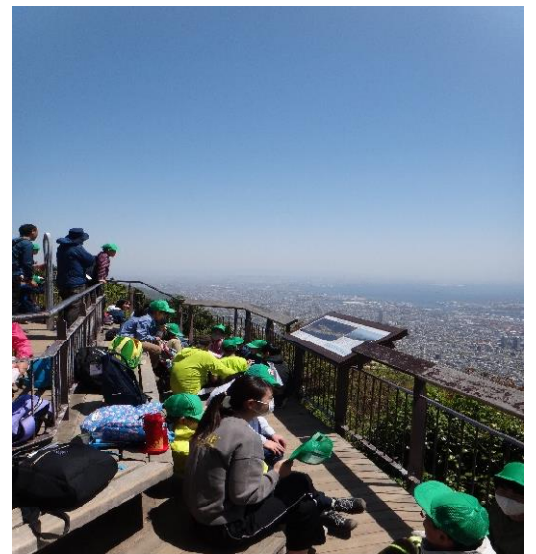


#### 4. 活動内容と感想

青い空が広がる素晴らしい天気。暑くも寒くない絶好の登山日和だ。教室生は午前9時に神戸登山研修所に集合、出席を確認して9時15分に出発。集合に遅れて昼に合流する教室生もあり教室生22名、引率10名で歩き始める。青谷登山口に入る前に妙光寺の日本一の馬頭観音を見学。見学後、歩き出し青谷道を登る。登り出しは急。春の緑輝く木々に囲まれた登山道を呼吸を整えながら登る。暫く歩くと左の斜面に昼がる茶畑の傍を歩く。この茶畑は神戸で唯一の茶畑。また歩き出して暫くすると行者堂跡に着く。ここには滝行をする行者場があり傍まで行って見学する。小休止の後、石段が続く山道を登る。長い石段を登るうち教室生の列が伸び先頭と最後尾が大きく離れてくる。第1回目の山行でもありコロナのせいか運動不足もあるようだ。

大きな杉があちこちに聳える山道をゆっくり登り旧天上寺の仁王門跡に着く。ここから上の広場までの長く続く石段の数を教室生に数えてもらう。途中、摩耶の大杉を見る。50年程前の旧天上寺が燃えた時に火を被り枯れたという。幹回り8mあり枯れても存在感のある立派な大杉だけに残念。再び石段を登って旧天上寺の本堂や塔のあった広場に到着。ここで休憩。石段の数を教室生に聞くと321段や351段、375段などの声があがったが、下見に来た時に数えた時は361段であった。(もちろんこれが正解という訳ではない)眼下に広がる神戸の街や港の景色は素晴らしい。休憩後、5年前の台風で倒れた親子杉を潜って暫く登り12時前に掬星台に到着。ここでもう1人も教室生と合流して昼休憩をとる。天気はいいが少し冷たい空気の風もあり上着を着るよう教室生に伝える。かいた汗が冷えて体調が悪くなるのを防ぐためだ。目の前に広がる大阪湾を見ながらみんなで食べる昼食は格別。教室生達は楽しそうに食べていた。

昼食休憩の後、出発時に少し遅れたので「登山教室では1人ではなく23名で活動している事を意識して行動するように。」と注意する。このような注意するのも登山教室の役割と考える。12時35分に掬星台を出発。10分程で摩耶山頂上の三角点に到着。近くには天狗岩もある。暫くして頂上から天狗道を下る。5日前の下見の時にはコバノミツバツツジの花が咲き乱れていたのに今日は花も散ってしまったのかあまり見かけない。若い若葉を付けた木々が茂る天狗道を下る。砂混じりの岩が出ている山道が続く、滑らないように注意を呼び掛けながら下る。途中、後半のグループで、列が伸びて前を歩く教室生が分からずに道を間違える。すぐに注意してもとに引き返した。学校林道との分岐点で休憩。ここからは登山道に枯葉が多く足を取られないように注意する。2時前に東山の高射砲陣地跡に到着。戦前の遺構である。周りは木々が茂り神戸の街は見えない。神戸のいろんな顔に思いをはせる。見学の後、新神戸駅を目指して歩き出す。ここでも列が伸び、後半のグループが道を間違えて下る。すぐに気が付き引き返した。ここでの反省点は、「列が伸びると前の人が見えず分かれ道などで間違える危険がある。もし間違えたことに気が付いたときにはもと来た道を引き返すこと。」(これらの事を解散時に注意した。)その後、教室生の一人が足首あたりを痛めたようなのでテーピングで固定する。捻挫というほどではなくゆっくりなら歩けるようなので一緒に歩く。階段状の山道をどんどん下ると雷



声寺に到着。ここまで来ると新神戸駅は近い。雷声寺の中や家々の間を歩いて3時20分に新神戸駅に到着。保護者の方も待っておられた。安全登山ハンドブックを配り、気が付いたことなどを伝えて解散した。

文責 大西